

20
25

未来へFIT 挑戦と成長

～新たなステージへともに歩む～

学校法人 福岡工業大学 長期ビジョン

VISION BOOK

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

20
35

MESSAGE

OTANI Tadahiko



未来へFIT 挑戦と成長

～新たなステージへとともに歩む～

我が国の超高齢化・少子化社会の進展は地方の衰退、ひいては日本経済の停滞を招き、グローバル経済下、日本の競争力はいっそう萎縮しています。教育界においても、2035年以降の学齢人口急減期を目前に、**学修者本位の教育への転換、理系人材育成、教育DX、AI活用、GX、D&I推進等**の課題が山積しているところ です。

この度、私たちはこれらの諸課題を包括的に捉え、教育機関としての使命感の下で、10年後のあるべき未来像「**挑戦し成長する学園**」をビジョンとして描き、そのゴールに向かう戦略を第10次マスタープランとして策定しました。その道のりは決して平坦ではなく険しく、不断の努力が求められるところです。

おって、**時の利として**、これからの国家政策や社会ニーズに適合する、本学園の情報・環境・モノづくりの教育・研究領域、**地の利として**、グローバル社会において、アジアに向けた玄関口・福岡に存するキャンパス、そして、最大の強みである**人の和として**、教職協働を根源とする、柔軟かつ強靱な組織力は、必ずや事に向かい事を成すものと確信いたします。

私たちは挑戦と成長して参ります。関係の皆様におかれましては、引き続きご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人
福岡工業大学 理事長

大谷 忠彦

CONTENTS

- 01 理事長メッセージ
- 02 建学の綱領・経営理念・
教育理念・経営目標・
育成すべき人材像
行動規範
- 03 〈長期ビジョン〉
・骨子
- 04 ・環境分析
- 05 ・重点方針(大学・短大)
- 06 ・重点方針(高校・法人)
- 06 ・ロードマップ
- 07 〈中期経営計画〉
- 07 ・理念体系
・経営管理システム
・マスタープラン策定の組織・体制
- 09 ・第10次マスタープラン(経営戦略概要)

> 建学の綱領

一、学徒の品性を陶冶し、
真の国民としての
教養を啓培する

一、宇宙の真理を探究し、
これを実生活に応用して
社会に貢献する

一、人類至高の精神、
自由平和信愛を
基調として世界に雄飛する
人材を育成する

> 経営理念

「建学の綱領」を補完する教職員共通の価値基準として「経営理念」を次のとおり定めています。

For all the students ～すべての学生生徒のために

この経営理念は、全ての教職員が行う教育、研究及び社会貢献等の諸活動における判断基準でもあります。
本学園は、公教育を担う学園(学校法人)としての使命を認識し、この経営理念の下に全力をあげて学生生徒の「教育」を行い、社会に貢献する人材を育成することを内外に宣言します。

> 教育理念

学問(学問の追究・創造・発展)

宇宙の真理を探究し、人間の福祉と環境との調和を指向して、科学技術の創造と発展に貢献する。

個人(個人としての人間性の涵養)

自由と平和を愛する心と信愛の情を養い、豊かな人間性と主体性・自律性を備えた人間を育成する。

社会(社会への主体的な対応)

多様な価値観と創造力をもって、グローバル化及び持続型社会の進展に主体的に対応できる実践型人材を育成する。

> 経営目標

教育研究活動とその成果を社会に還元するという教育機関の使命に基づき、本学園では次のとおり「経営目標」を定めています。

情報・環境・モノづくり領域で教育研究力を発揮し、広く社会に貢献する。

この経営目標には、大学に求められる機能として、エンジニア、ゼネラリスト等の幅広い職業人養成、地域での生涯学習機会の提供、地域貢献、産官学連携等の社会貢献を含意しています。

> 育成すべき人材像

自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような実践型人材を育成する。

〈工学部〉21世紀の「モノづくり」を担う、創造力豊かな技術者を育てる。

〈情報工学部〉高度情報化社会を担う、問題解決力に優れた技術者を育てる。

〈社会環境学部〉「環境問題」の解決に貢献できる実践型の人材を育成する。

> 行動規範

全ての教職員は、「学生生徒のためになること」を念頭に置き行動します。

Just Do It ! 即実行する

2025 - 2035 (骨子)

1

2035年までには、人材育成の輩出拠点として、地域から選ばれ続ける確固たるポジションを獲得する。

- 福岡工業大学は、2027年から収容定員4000人以上の「アジア屈指の中規模大学」に発展する。
- 短期大学部は、4年制学部／学科への発展的改組検討を含めた「新たなステージ」に移行する。
- 城東高校は、「福岡県で最も入学したい私立高校」に名実ともに成長する。

2

2035年までには、「*For all the students*～すべての学生生徒のために」に基づき、本学園のさらなる成長と発展を実現する。そのために、社会的ニーズ(地域課題解決等)対応の教育改革はもとより、理工系女子・外国人向けの教育、地域企業への進路支援、リカレント教育の充実等、地域社会に必要とされ続ける教育研究機関としての役割を果たす。

3

2035年までには、上記を実現するための基盤的整備として、福岡工業大学の教育・研究のプレゼンスアップに繋がる新棟建設と既存施設の再配分を行う。
また、柔軟かつ強靱な組織力を進化・発展させるための教職員のWell-beingを実現させる。

2025～2035年の環境分析

文教政策

1. 急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について(諮問)
2. 第4期教育振興基本計画
 - ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
 - ②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
 - ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
 - ④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
 - ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話
3. 教育未来創造会議第一次提言
 - ＜未来を支える人材を育む大学等の機能強化＞
 - ①成長分野への大学等再編促進
 - ②文理横断教育推進
 - ③「出口での質保証」強化
 - ④理系分野等での女性活躍推進
 - ＜新たな時代に対応する学びの支援の充実＞
 - ①学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大
 - ②ライフイベントに応じた柔軟な返還の仕組みの創設
 - ③博士課程学生の支援充実
 - ＜学び直し(リカレント教育)を促進するための環境整備＞
 - ①能力・学びの可視化
 - ②学び直しの成果の適切な評価
 - ③学ぶ意欲がある人への支援充実
4. 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)
 - ＜教育研究の「質」の更なる高度化＞
 - ①学修者本位の教育の更なる推進
 - ②多様な学生の受入れ促進(外国人留学生や社会人等)
 - ③大学院教育の改革
 - ④研究力の強化
 - ⑤情報公表の推進
 - ＜高等教育全体の「規模」の適正化＞
 - ①高等教育機関の機能強化
 - ②高等教育全体の規模の適正化の推進
 - ＜高等教育への「アクセス」確保＞
 - ①地理的観点からのアクセス確保
 - ②社会経済的観点からのアクセス確保

課題認識

1. 人材育成の重要拠点
 - ・学齢人口の減少による労働人口の減少については、福岡県(福岡市)にとっては、若者の流出・流入のバランスによって差し迫った課題としての認識は小さい。
 - ・九州全域に目を向けた場合、その課題は大きい。
 - ・九州地区の高等教育機関の経営状況(学費、志願者・入学者数、財務状況等)を鑑みれば、今後、九州全体としての「人材育成(輩出)力」の低下は容易に想像できる。
 - ・福岡県(福岡市)が、九州ひいてはアジアの拠点都市として、地域で活躍する人材を育成し、輩出することの重要性は、今後益々高まっていくことが予測される。
2. 社会ニーズ(地域課題解決等)対応
 - ・福岡県(福岡市)ならびに近隣自治体との産官学連携の必要性・有用性は論を俟たないところであるが、とりわけ、理工系女子学生や外国人留学生の地域人材としての育成は、国の政策(教育未来創造会議提言)に合うものである。
 - ・具体的な取り組みとしては、地域企業の人材育成ニーズと大学等の教育内容との整合(教育課程に係る外部有識者との協議)、理工系女子・外国人向けの補完的教育、進路開拓支援、リスキング(企業ニーズ)とリカレント(社会人教育メニュー)との整合等が考えられる。本学においては、緊密な産官学連携を図り、これらの社会的ニーズを汲み上げ、地域社会に必要とされ続ける教育機関としての役割を果たす必要がある。

大学

I 福岡から世界へ羽ばたく実践型人材の育成

- ・FITの進化する教育システム(新DPと新ポートフォリオ)
学修成果の可視化・フィードバック→自律的に成長する学生
「全学共通の“デジタル”力」×「“専門”力」を発揮する学生
- ・実践型グローバル教育の展開(全学生に留学機会提供)
- ・ダイバーシティ&インクルージョン
女性学生比率30%、留学生比率15%へ
- ・全国屈指の私立理工系大学院への挑戦

II 九州をリードする研究成果の創出

- ・外部研究費獲得 年間5億円
- ・知の社会実装 大学発スタートアップ企業の育成

III 就職力日本一

- ・著名400社への輩出比率 全国1位
- ・九州地域経済への貢献(地元就職率/起業数の目標化)
- ・卒業生の就業満足度最大化/同窓会組織

IV グローバル化・社会連携の推進

- ・アジアをターゲットとした新グローバル戦略
- ・既存の地方自治体に加え、福岡県(福岡市)とのさらなる連携

V 広報および募集活動の戦略的展開

- ・本学園が地域社会から持続的に選ばれ続ける戦略的広報の確立

短大

VI 新たなステージに向けた基盤強化

- ・4年制学部/学科への発展的改組検討を含めた「新たなステージ」に移行するための基盤強化
- ・組織力、教育力、地域連携力、高大連携力の抜本的改革
- ・日本で一番“活力のある短大”

高校

VII 城東高校の特色ある教育の再構築と実施

- ・豊かな人間性を育てる学校
～ステークホルダーへの浸透(スクール・ポリシーに基づく教育の実践)
- ・生徒一人ひとりの個性を伸長させる学校
～それぞれの専門分野で突出した人材を輩出する環境づくり
- ・生徒一人ひとりの進路目標を実現させる学校
～中学生・保護者に理解される魅力的で多様な進路への対応
- ・地域社会から愛され共に発展する学校
～地域に笑顔と元気を届けるみんなの学び舎「チーム城東」
- ・地域の教育文化の中心となる学校
～設置学科の改組/収容定員増の検討
～教員人材の「確保と育成」・教員定数の検討

法人

VIII 財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化

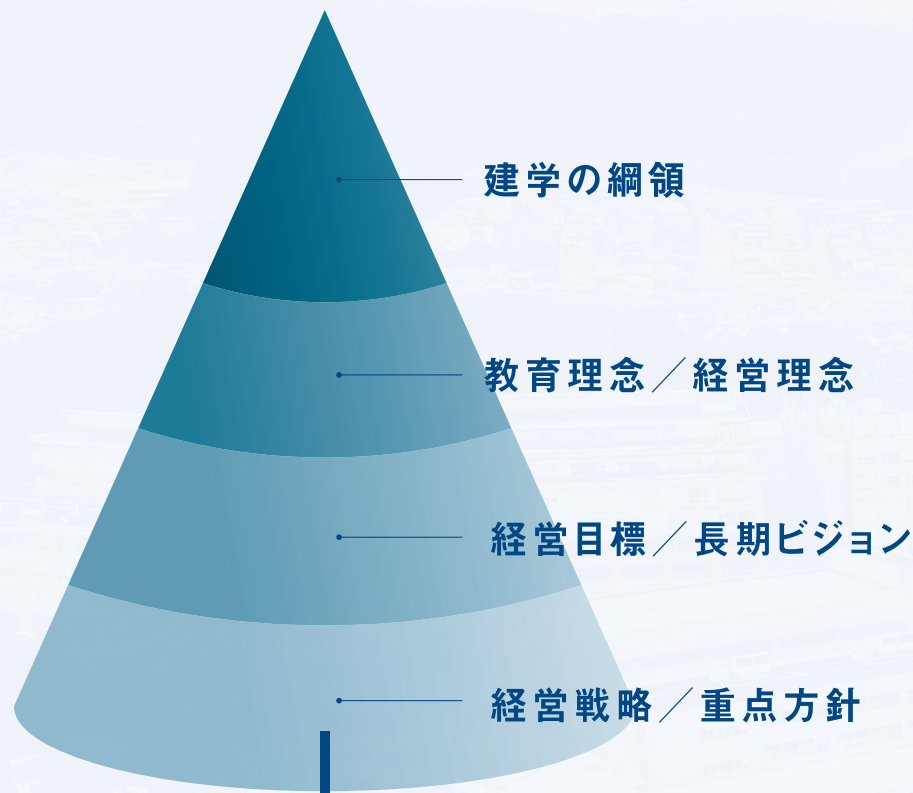
- ・経営財政の安定
小規模大学から中規模大学(収容定員4000人以上)へ
- ・組織ガバナンス日本一
柔軟性と強靱性を併せ持つ組織力/全国のモデル校
- ・学園の持続的な成長
顧客に選ばれ続ける魅力・成果創出
教職員とその家族が安心できる学園(教職員のWell-being)

ロードマップ

重点方針	2025-2027(第10次MP)	2028-2030(第11次MP)	2030-2035(第12次MP～)
大学	FITの進化する教育システム		
	実践型グローバル教育の展開(基盤整備)		実践型グローバル教育の展開(展開)
	九州をリードする研究成果の創出		
	就職力日本一		
	グローバル化・社会連携の推進		
短大	組織力、教育力、地域連携力、高大連携力の抜本的改革	組織力、教育力、地域連携力、高大連携力の抜本的改革/新たなステージへの移行	
高校	ステークホルダーへの浸透(スクールポリシーに基づく教育の実践)		
	高短大教育連携の確立・社会との連携の発展		
	設置学科の改組/収容定員増の検討	教員人材の「確保と育成」	
法人	経営・財政の安定/小規模大学から中規模大学(収容定員4000人以上)へ		
	教職員とその家族が安心できる学園(教職員のWell-being)		

第10次中期経営計画 2025-2029

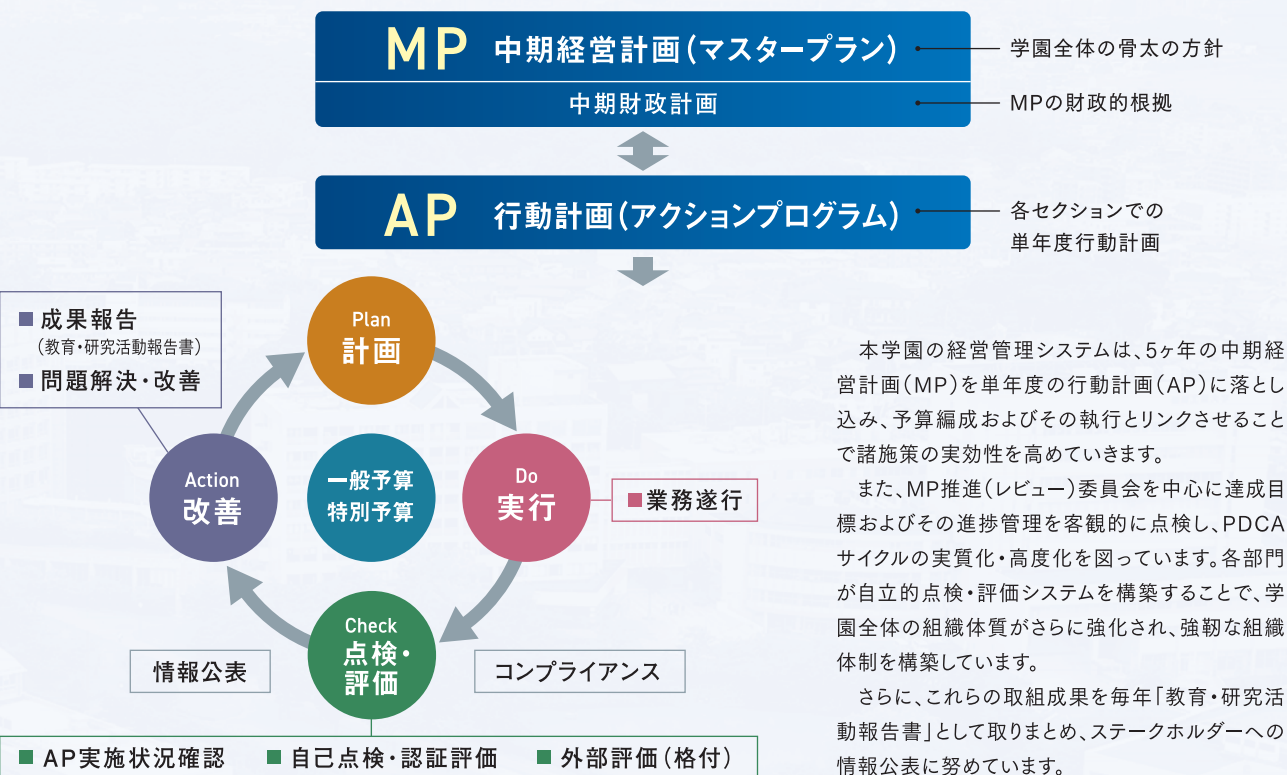
理念体系



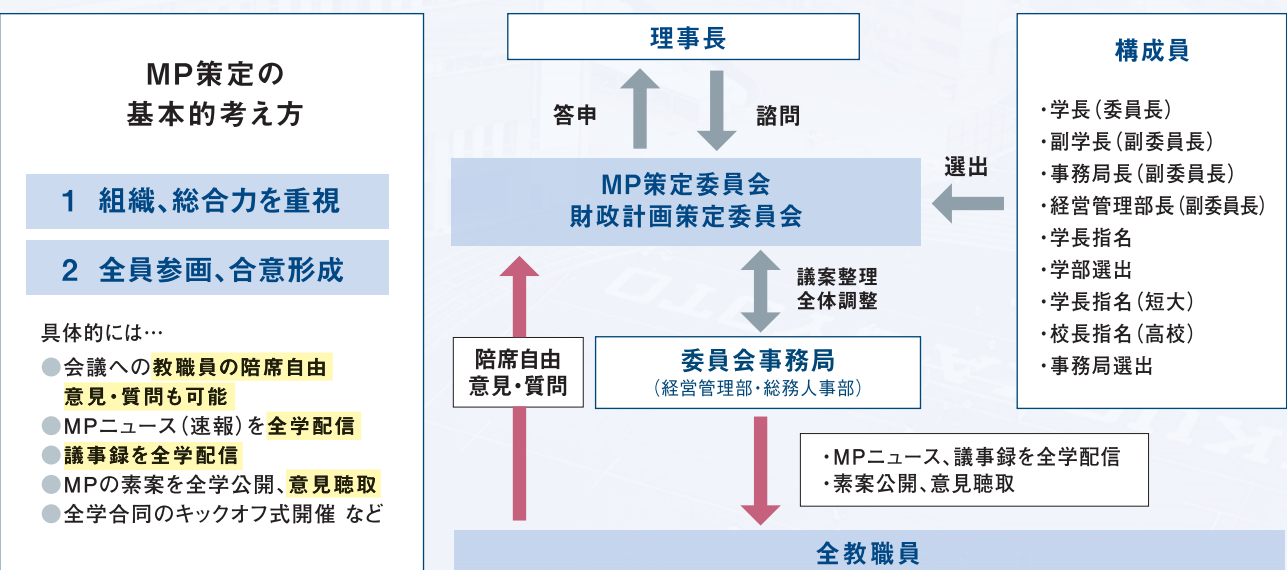
重点方針

- | | | |
|----|------|---------------------|
| 大学 | I | 福岡から世界へ羽ばたく実践型人材の育成 |
| | II | 九州をリードする研究成果の創出 |
| | III | 就職力日本一 |
| | IV | グローバル化・社会連携の推進 |
| | V | 広報および募集活動の戦略的展開 |
| 短大 | VI | 新たなステージに向けた基盤強化 |
| 高校 | VII | 城東高校の特色ある教育の再構築と実施 |
| 法人 | VIII | 財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化 |

経営管理システム



マスタープラン策定の組織・体制



第10次マスタープラン(経営戦略概要)

計画期間：令和7年度～令和11年度(2025年度～2029年度)

重点方針

- 大学
- I

福岡から世界へ羽ばたく実践型人材の育成
- II

九州をリードする研究成果の創出
- III

就職力日本一
- IV

グローバル化・社会連携の推進
- V

広報および募集活動の戦略的展開

短大

VI

新たなステージに向けた基盤強化

高校

VII

城東高校の特色ある教育の再構築と実施

法人

VIII

財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化

ユニット1

学部、教養力育成センター、大学院、
教育開発推進機構、教務部、学生部、就職部

コミットメント

- ・学修者本位の教育による実践型(課題発見・課題解決)デジタル人材の育成
- ・FITの進化する教育システムの成果創出
年度退学率3%未満、修業年限卒業率80%
- ・全国屈指の私立理工系大学院への挑戦
工学研究科内部進学率20%

1 時代の先頭を走り社会で活躍する人材育成

- ・新DPに沿った教育の実践と革新
- ・MDASHの全学部展開と高次AL科目による「発信力」育成

2 学修者本位の教育システム

- ・FITトータルアシストの展開

3 社会と接続した基盤的カリキュラム改革

- ・新定義による高次AL科目割合30%
- ・基盤的カリキュラム改革と数学マネジメントの実質化
- ・学部の学びと社会との連携強化(技術革新への対応、イノベーションの推進)【情】
- ・フィールドワーク等実践型科目の拡充【社】

4 学生の自律を高める支援

- ・大学入学時の導入教育
- ・ダイバーシティ&インクルージョンの推進

5 学部と大学院教育の接続と分野横断教育

- ・学部内での共同研究の促進体制(従来の学科を超えた連携)【工】
- ・FIT-Techプログラムの推進
定員充足:全研究科9専攻
内部進学率向上:20%(工学研究科)
- ・学部と大学院教育の接続と分野横断の学びの提供
- ・国立大に伍する研究力をもつ学生の育成

6 就職力の強化

- ・就職率の高位安定の確保
実就職率95.0%以上(大学・大学院)
- ・有名企業群の基盤拡大
- ・九州地域経済との連携

ユニット2

入試広報部、総合研究機構、学術支援機構、
附属図書館

コミットメント

- ・学生募集 実志願者数3,050人 総志願者数1万人
- ・九州をリードする研究成果の創出
外部資金獲得 3億円
- ・アジアをターゲットとした新グローバル戦略
海外への学生派遣 年間10% 440人

1 教育と連関した学生募集戦略

- (1)入学者数:1,062人
- (2)実志願者:3,050人
- (3)総志願者数:1万人
 - ①年内入試の入学者比率向上
 - ・総合型選抜の更なる拡充
 - ②一般選抜における入学歩留率向上
 - ③福工大ブランドの確立
 - ・唯一無二の教育研究力に関する情報発信の強化
 - ・ブランド認知を促進する施策の強化

2 研究の高度化・産学連携

- (1)科研費の質(研究種目難易度)の向上と量(採択件数・獲得額)の拡大
 - ・科研費申請率100%
 - ・獲得額目標1.2億円
- (2)府省庁所管競争的研究費他、産官学連携による外部資金の獲得強化
 - ・外部資金獲得額1.7億円
- (3)社会実装と大学発スタートアップの実現に向けた新たな挑戦

3 グローバル教育拠点の実現

- 教育研究環境のグローバル化推進
- ・正規留学生比率5%(220人)*別科入学者を含む
- ・英語での学位取得可能なプログラムの実現
- ・日本人学生の派遣プログラム派遣比率 年間10%(440人)

4 教育・研究・働き方のDX化

- ・学生BYODを中核とした教育DXの高度化と教育データ利活用の促進

5 地域に選ばれる学園

- ・学園価値の向上に資する地域貢献活動及び生涯学習の推進
- ・教育・研究・大学運営の質向上に資する大学間連携の高度化

ユニット3

短期大学部、附属城東高校

コミットメント(短期大学部)

- ・4年制学部／学科への発展的改組のための基本構想設計と基盤づくり(外部からの客観的評価獲得)
- ・日本で一番“活力のある短大”収容定員充足率100%以上
基本金組入前事業活動収支差額黒字

【新ステージに向けた教育改革の推進】

- ・「デジタルクリエイション」を通して幅広い情報技術を修得できるカリキュラムと教育体制の構築に着手
- ・教育DXによる個別最適化と協働的な学びを取り入れた教育方法をプログラミング等の主要専門科目に導入し、授業PDCAを実施

【活力のある短大であるための基盤づくり】

- ・入学定員の確保(入学者数160人)
- ・研究環境改善のための業務分析等を実施
- ・進路実績を維持(進路決定率90%/情報系進路決定者:就職50%以上・編入80%以上)

コミットメント(附属城東高校)

- ・特色・魅力がある教育の実践
(普通科と工業系学科を併設する福岡市内唯一の高校の挑戦)
- ・ステークホルダーから支持される教育環境(ヒト・モノ・コト)整備

1 中学生・保護者・地域から支持され続ける持続可能な教育環境(ヒト・モノ・コト)の整備

2 工業系学科の改編とDXハイスクール事業の推進

3 アドミッション・ポリシーに基づいた募集活動と入学者選抜の実施

志願者数1,800人 入学者数630人

4 GPとCPを踏まえた教科指導計画・学習指導計画の作成と実践

5 福岡工業大学・短期大学部との新たな連携

6 進路先のマッチング度と卒業生・保護者の満足度が高い進路支援

(進学)合格者数:国公立大学100人
(九州大学10人+難関国公立大学5人)
福岡大学200人、西南学院大学100人
海外の大学5人
(就職)1社目内定100%

ユニット4

財政・組織ガバナンス

コミットメント(財政)

- ・財政規律(人件費53%以内、教研費30%以上、管理経費10%未満、黒字その他3~5%)堅持
- ・内部留保資産(現預金保有額)
R11計画最終年度130億円超
- ・財政的成長
H16年度比正味財産50億円拡大

1 教育・研究への積極的資金投下と健全財政の両立

2 相対的高賃金と人件費安定化の両立

3 先進的なキャンパスの創造

4 学納金の安定確保と相対的低学費の維持

5 外部助成金等の安定的補捉

6 3設置校の財政的自立

7 学校経営の可視化

8 経営管理システムの実質化

コミットメント(組織ガバナンス)

- ・柔軟性と強靱性を併せ持つ組織力/全国屈指の教職協働モデル校
教職員のWell-beingの可視化
- ・ダイバーシティ&インクルージョン関連施策の実施

1 学校改革に資する組織・人材戦略の立案

- ・学校法人ガバナンスの深耕
- ・経営戦略と連動した人材戦略の実行
- ・前提としての業務基盤整備

2 エンゲージメント・コミットメント向上を通じた、FITらしい組織風土・組織文化の醸成

福岡工業大学

工学部

- 電子情報工学科
- 生命環境化学科
- 知能機械工学科
- 電気工学科

情報工学部

- 情報工学科
- 情報通信工学科
- 情報システム工学科
- 情報マネジメント学科

社会環境学部

- 社会環境学科

大学院

- 工学研究科博士後期課程
 - ・物質生産システム工学専攻
 - ・知能情報システム工学専攻
- 工学研究科修士課程
 - ・電子情報工学専攻
 - ・生命環境化学専攻
 - ・知能機械工学専攻
 - ・電気工学専攻
 - ・情報工学専攻
 - ・情報通信工学専攻
 - ・情報システム工学専攻
 - ・システムマネジメント専攻
- 社会環境学研究科修士課程
 - ・社会環境学専攻

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科

電気科

電子情報科

学校運営の安定性・積極性で格付会社から高い評価を獲得

R&I格付 **A+**

2020年から6年連続[A+]

2020年に9年連続の[A]から[A+]に上昇

JCR格付 **AA-**

2021年から5年連続[AA-]

2021年に7年連続の[A+]から[AA-]に上昇

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

福岡工業大学

福岡工業大学短期大学部

福岡工業大学附属 城東高等学校

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号
(経営企画課) TEL 092-606-0618(直)
FAX 092-606-8923

